

# 山城小だより



H30. 9. 28 (金)  
学力向上対策推進委員会

## ☆学校教育目標

「やさしく かしこく たくましく」

- 心豊かで、思いやりのある子ども
- 進んで学び、正しく判断できる子ども
- 心身ともに健康で、実行力のある子ども

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月17日（火）に全国の小中学校で実施されました。

本校では、6年生203名が参加しました。調査内容は、①教科に関する問題（国語・算数・理科）、②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれ、教科の国語と算数もA（主として「知識」に関する問題）、B（主として「活用」に関する問題）に分かれています。

この調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善などに役立てることを目的としています。

調査結果を踏まえて授業の改善を進め、児童の学習状況の改善につながるよう努めてまいりたいと思っております。

また、次のように本校の調査結果の概要をまとめましたので、保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載していきたいと思っております。

全国学力・学習状況調査の結果につきましては、全国平均正答率の±5%の範囲にある場合は、全国平均とほぼ同等であると考えています。

〔参考〕教科別平均正答率（全国・山梨）

	国語 A 正答率	国語 B 正答率	算数 A 正答率	算数 B 正答率	理科正答率
全国平均	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
県 平均	71	54	62	50	60

### ◇ 本校の調査結果

正答率 60%未満を、全国平均正答率または県平均正答率を 5%以上下回る事柄を、無解答率 10%を上回る事柄を「課題あり」ととらえます。また、全国平均正答率および県平均正答率を 5%以上上回る事柄を「良好」ととらえ、以下に示します。

## 【国語 A】

### （1）結果の概要

- ・ 平均正答率について、全国平均および県平均を下回りました。
- ・ 学習指導要領の領域等について、「話すこと・聞くこと」は全国と同じで県を下回り、「書くこと」は全国および県を上回り、「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では全国および県を下回りました。

### （2）課題があった事柄

- ① 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くこと（言語についての知識・理解・技能）
- ② 相手や場面に応じて適切に敬語を使うこと
- ③ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと

### （3）主な改善点

伝えたいことを正確に相手に伝えたり、既習の学習内容をふまえ、主語述語の関係に注意して文章を読んだりする習慣をつけることに引き続き取り組みます。また、日常生活の中で敬語や漢字を適切に使うよう繰り返し指導していきます。

## 【国語B】

### (1) 結果の概要

- ・ 平均正答率について、全国平均を下回るが、県平均と同じです。
- ・ 学習指導要領の領域等について、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は、全国および県を下回りました。

### (2) 課題があった事柄

- ① 話合いの参加者として、質問の意図を捉えること
- ② 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くこと
- ③ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むこと
- ④ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むこと

### (3) 主な改善点

自分の考えが相手に伝わるように、文章構成を把握しながら、書いたり話したりすること、情報収集の範囲やその活用方法を広げて自分の考えを明確にすることを指導します。自分の考えを明確にするためには、文章から必要な叙述を選び、他の部分に書かれている叙述と比べたり、自分の経験や考えなどと関連づけながら考えをまとめたりすることが必要であることを指導のポイントにしていきます。

### (4) 良好な事柄

- ・ 目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えること

## 【算数A】

### (1) 結果の概要

- ・ 平均正答率について、全国平均および県平均を下回りました。
- ・ 学習指導要領の領域等について、「数と計算」「量と測定」「数量関係」は、全国および県を下回りました。「図形」は、全国を下回り県を上回りました。

### (2) 課題があった事柄

- ① 1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解すること
- ② 小数の除法の意味について理解すること
- ③ 単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解すること
- ④  $180^\circ$  や  $360^\circ$  を基に分度器を用いて、 $180^\circ$  よりも大きい角の大きさを求めること
- ⑤ 示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現すること
- ⑥ 直径の長さや円周の長さの関係について理解すること
- ⑦ 百分率を求めること
- ⑧ 折れ線グラフから変化の特徴を読み取ること

### (3) 主な改善点

問題場面を的確に捉え、問題を解決する過程で数量の関係を捉えることは大切です。数量の関係を図や数直線などに表す活動を取り入れて、計算の意味の理解を図り立式することができるよう、繰り返し指導します。

また、提示された図を正しく読み取るために、見通しをもって考える力が必要です。具体物を用いたり、図に表したりする作業的・体験的活動を取り入れて実感的な学習ができるよう指導します。

### (4) 良好な事柄

- ・ 除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している
- ・ 1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる
- ・ 円周率の意味について理解している

## 【算数B】

### (1) 結果の概要

- ・ 平均正答率について、全国平均および県平均を下回りました。
- ・ 学習指導要領の領域等について、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」全て全国および県を下回りました。

### (2) 課題がある事柄

- ① 図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が  $360^\circ$  になっていることを記述すること
- ② 示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断すること
- ③ メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述すること
- ④ 棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断すること
- ⑤ 示された考え方を解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述すること
- ⑥ 折り紙の枚数が 100 枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述すること

### (3) 主な改善点

日常生活の中にある問題の解決のために、情報を収集し、複数の情報を関連付けて論理的に考察することや、図形の構成要素や性質を基に、筋道を立てて考え説明することが必要です。指導に当たっては、具体的活動を取り入れながら考察し、式や表、グラフ、図を用いて数学的に表現したり、条件に合う事柄について適切に判断したりすることができるように指導します。

## 【理科】

### (1) 結果の概要

- ・ 平均正答率について、全国平均および県平均を下回りました。
- ・ 学習指導要領の領域等について、「物質」「地球」は、全国および県を下回りました。「エネルギー」は、全国および県を上回りました。「生命」は、全国を下回り県を上回りました。

### (2) 課題がある事柄

- ① 人の腕が曲がる仕組みを模型に適用すること
- ② 堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解すること
- ③ 土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想すること
- ④ より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述すること
- ⑤ 電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想すること
- ⑥ 太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用すること
- ⑦ 物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用すること
- ⑧ 骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解すること

### (3) 主な改善点

観察や実験の結果を基に事実と解釈の両方を示しながら説明する学数活動を取り入れた授業を行います。既習の科学的な言葉や実際の様子と関連付けた模型や図・絵などを用いること、学習内容や生活経験と関連付けて説明したり、根拠をもって自分なりの考えを述べたりするよう指導しています。また、引き続き、実験方法の妥当性や得られる結果の見通しなど、児童同士で検討する場面を設定することを積極的に取り入れていきたいと思っております。

## 【児童質問紙調査から】

児童の学習を支える「基本的な生活習慣」や重点において指導に取り組んでいる「読書」「家庭学習」等を中心に、児童質問紙調査の結果を示します。また、学力調査と質問紙調査の二つから、児童の学習について考察します。

### ◇ 基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）

「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に、「している」と答えた児童は、全国および県を上回り、8割から9割超の児童が、肯定的な答えをしています。

### ◇ 読書

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」の質問に対して、本校児童の半数は、毎日30分以上の読書をしています。これは、全国や県を上回ります。

### ◇ 家庭学習

「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」「家で、学校の宿題をしていますか」「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか」の質問に、「している」と答える児童の割合は、全国や県を上回ります。

また、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」に対しては、1時間以上勉強する児童の割合は、県を上回り全国とほぼ同じです。

### ◇ 授業の様子

「算数の授業の内容はよくわかりますか」「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に方法がないか考えますか」「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」「理科の授業の内容はよくわかりますか」「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったか考えていますか」など質問に肯定的に答える児童の割合は、全国や県と同じかそれらを上回ります。

### ◆ 学力調査と質問紙調査の結果からの考察

肯定的な答えが全国や県と同じかそれ以上を示す質問紙調査に比べ学力調査に、多くの事柄に課題が見られます。このことについて、次のように考察しました。

#### ○ 授業の内容の浅い理解

問題を解く簡単な方法や別の方法、公式やきまりについてのわけ、観察や実験結果から分かったことなどについて、友だちや教師の説明などで分かったつもりで、次に進んでいる。そのため、問題（課題）解決の方法の見通しを持つのに時間を費やしてしまう、あるいは、見通しを持ってない。

#### ○ 他律的な学習意欲での宿題や家庭学習への取組

先生や親がうるさい、やらずに（忘れて）友だちにバカにされたくない等の理由で、取り組んでいる。

これらのことを改善するためには、学習内容を関連付けて統合的な理解を促す学習方法や、問題（課題）解決の手がかりや糸口をつかみ学習の道すじを教えることが必要です。また、自分の考えを発表する機会では、自分の考えをうまく伝えるよう、根拠や理由、資料や文章、話の組立などを工夫する態度を育てることも必要です。バランスの取れた、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の育成に向けて、授業改善を進めてまいりたいと思います。引き続き、御理解と御協力をお願いします。